

松山信裕議員



立地適正化計画について  
障害者雇用について

そのほかの質問  
・シティプロモーションからの農業について  
・マイクロプラスチックについて

一般質問

**問** 行政と住民や民間事業者が一体となったコンパクトなまちづくりを促進するため、立地適正化計画制度が創設された。この立地適正化計画では、近年の地域のあり方において、「人口減少」とされ、さまざまな視点から検討が行われ、高齢者や子育て世代にとって安心できる生活環境を実現すること、財政面及び経済面において「持続可能な都市」を可能とすることが大きな課題である。勝山市が目指すコンパクトシティに対する考え方と今後の課題について、どのように考えているのか。

**答** 勝山市が目指すコンパクトシティは、これまで投資してきたインフラ整備を活かした、健全で持続可能なまちづくりを進めていくことを基本方針としている。今後の課題については、人口の減少、高齢化が進み、また公共施設の老朽化が顕著となり、公共施設の維持管理費の増大からくる財政の悪化などが挙げられる。そのため、これまで以上に、効率的なまちづくりを進めていかなければならないと考える。

**問** 障害者雇用には雇用支援のみならず、就職後は職場に定着するまで本人と企業の双方をフォローする事や就労後の人事、人間関係などの相談など、長期にわたる職場定着支援が必要と考えるが、勝山市の取り組みと課題について伺う。

**答** 仕事も含めた生活相談全般に関しては、「障害者生活支援センター」で相談や支援を行っている。一般就労に結び付いた方に対しては、職場適応援助者事業のジョブコーチを福井障害者職業センターから派遣をすることができると、就労を継続させるための支援があるので、市内の事業所の方には、各制度を利用していただきたいと考えている。

各事業所が、障害の特性の理解を今以上にしたいだけのように、大野公共職業安定所も事業所向けに研修会を行っており、奥越地区障害者自立支援協議会でも、市民へ理解いただけるように周知啓発活動を続けていきたい。

近藤栄紀議員



人口減少問題について  
重要文化財「旧木下家住宅」の  
これからの利活用について

そのほかの質問  
・雪害対策計画について

一般質問

**問** 移住・定住者を確保するには他市町には負けない魅力ある施策が必要。すくすく育成奨励金の第1子から支給、小中学校の給食費の無償化を取り入れる考えはないか。また、今後、どの様に子育て支援トップクラスを目指すのか。

**答** すくすく育成奨励金の支給を第1子から実施することについては、アンケート調査結果の中で、保護者から強い要望があった子ども医療費の無料化についてを優先し、完全無料化とさせていた。今後の子育て支援については、現在、国で検討されている、保育料無償化の具体的な方策を踏まえ、多様化する子育て世代のニーズに沿った子育て施策について調査研究を行い、安心して子育てができる環境整備に努めたい。

また、小中学校の給食費無償化については、現在市が負担している経費に加えて、さらに年間約1億円の予算が必要となるので、現在の財政状況の中では容易ではないと思われる。

教育活動に係る経費を含む子育て支援については、教育、福祉などの幅

広い観点からの検討が必要であり、今後の研究課題としたい。

**問** 重要文化財「旧木下家住宅」の保存修理が10月に完成し、地元北郷地区では、保存会準備委員会を発足し、一般公開に向け準備を進めているが、市は新たに、この旧木下家住宅をどの様に利活用していくのか。

**答** 一年を通して囲炉裏に火を入れ、茅を良好に保つなどの管理のほか、活用保存会に年間4回程度のイベントをしていただき活用していく予定である。イベントの内容は、保育園や小学校、地域の様々な団体に呼びかけ、広く来て頂けるような取り組みを行い、心がつながる地域振興の拠点となるような活用につなげたいと考えている。

また、「旧木下家住宅」の魅力発信するため、市のホームページ等で情報発信を行うとともに、リーフレットを作成し、「福井県立恐竜博物館」や「白山平泉寺歴史探遊館まほろば」など市内の観光施設に配置し、新たな周遊施設の一つとして足を運んでいただけるよう努めたい。